

機関番号：12102

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2008 ～ 2010

課題番号：20320028

研究課題名 (和文) 芸術受容者の研究—観者、聴衆、観客、読者の鑑賞行動

研究課題名 (英文) On Reception of Arts: Appreciation Actions of Viewer, Audience, and Reader

研究代表者

五十殿 利治 (OMUKA TOSHIHARU)

筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授

研究者番号：60177300

研究成果の概要 (和文) : 芸術の受容者の鑑賞行動に関する史的な研究については、たとえば近代文学史におけるアンケートに基づく読者調査のような基礎的な資料を欠くところから、研究対象にどのようにアプローチするのか、学術的な方法論が問題である。これに関連して研究対象である受容者の様態を検証することも重要である。本研究においては、共同研究により、従来に顧みられなかったカメラ雑誌の月評など、資料の発掘を含めてその方法論が多様であることが明らかとなり、むしろ研究として今後十分な展開の可能性があることが明らかになった。

研究成果の概要 (英文) : To promote study on reception of arts and appreciation activity from historical viewpoints, methodological discussion how to approach the object is of paramount importance for lack of basic sources such as questionnaire researches on readership in history of modern literature. In this connection, it is also vital to how to define types of reception of arts. Our collaborative study elucidated that various approaches to reliable sources and documents such as hitherto neglected monthly reviews in a camera journal are possible that studies on reception of arts possess a good potentiality for further investigation.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
2009年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2010年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
年度			
年度			
総計	13,600,000	4,080,000	17,680,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：芸術諸学、芸術受容

1. 研究開始当初の背景

現代における芸術が置かれた状況はマスメディアと大衆社会を抜きにしては論じることができない。たとえば、美術館博物館での受容を考えると、どのような社会階層に属する観者がどのように展示品を見ているのか、そしてその作品を見ること、さらに作品についての言

説を読むという体験はどのようにして蓄積され、伝達され、定着するのかということが問題になる。

しかも、現実の社会では、絵を見る人間は映画も演劇も観る。こうした芸術受容(鑑賞行動)の実態にアプローチを試みるため、近代日本における芸術ジャンルについて、それぞれのジャンルにおけ

る受容者を比較分析し、さらに一般化することが必要であると考えられる。

2. 研究の目的

芸術受容と受容者について各ジャンルにおける特殊性・独自性を確認する一方で、より一般的な受容（鑑賞行動）の様態を受容者（観者、聴衆、観客、読者）に即して解明することを目指す。

そして研究の対象として以下を設定した。

- ① 芸術の個別ジャンルにおける受容者の鑑賞行動の研究
- ② 芸術の受容のシステムと受容者の鑑賞行動の一般的な様態の研究
この研究から派生すると考えられる領域として、以下が想定される。
- ③ 複数の領域にまたがる芸術の受容者の鑑賞行動の研究

3. 研究の方法

専門性（ジャンル）の枠を超えるという方針から、美術史、演劇学、音楽学といった単純な縦割りのジャンルを優先した研究グループを組織せず、個別的なテーマを、芸術の受容者という大テーマに即して探究し、その研究成果を定期的開催する研究会で発表することで、相互に芸術の受容と受容者への認識を深め、同時に各自の領域においてその共有された認識をフィードバックするという方法を採用することにする。ただし、個別テーマにおいても、共通的な研究対象として写真や記述を収集して、報告に際して極力その成果を盛り込むようにする。

なお、研究上で予想される方法的な困難についていえば、受容者の多様性にどこまで迫ることができるかという問題があるが、その多様性が浮彫になるような現象を洗い出し、丁寧に分析することで対処することにする。

4. 研究成果

(1) 本研究においては、3年間を通して、連携研究者のほか、ジャンルにこだわらずに話題提供を求めて、さまざまな形の芸術受容と芸術受容者について討議を行った。研究成果として最も重要なことは、その議論の土台となる基礎的な資料が多様に求められるということであった。

(2) 話題提供されたテーマとは、以下に簡略化して示すが、時代もジャンルにおいても、多彩なものであり、所期の研究目標にかなったものであった。

・日中戦争期から太平洋戦争期までの兵士と絵画表現（河田明久、千葉工業大学

准教授）

- ・夢二の受容について雑誌における「見ること」「描くこと」「語ること」の連鎖（高橋律子、金沢21世紀美術館学芸員）
- ・戦前から戦後の女性アクション映画のジェンダー論的検討（鷺谷花）
- ・1970年代の「アニメ・ブーム」の受容（木村智哉）
- ・2003年「ペリクーズ」にみる蜷川幸雄の観客と劇評（菊池あずさ）
- ・昭和30年代の松竹資料に基づく観客動向（中野正昭）
- ・宝塚の海外公演とその越境性（山梨牧子）
- ・17世紀オランダ絵画にみる「新世界」の受容（尾崎彰宏）
- ・宝塚の観客層について（鈴木国男）
- ・板垣鷹徳による『アサヒカメラ』誌上の写真展月評（五十殿利治）
- ・岸田国土作「風俗批評」における演劇と観客（宮本啓子）
- ・流通と読者からみる戦前期の外地書店（日比嘉高）
- ・アメリカで上演されたマックス・ラインハルト演出「奇蹟」について（大林のり子）
- ・築地小劇場の興行の実態（阿部由香子）
- ・GHQのメディア政策と演劇上演の検閲について（川崎賢子）
- ・油絵茶屋と下岡蓮丈作「台湾戦争図」について（木下直之）

(3) こうした話題提供において浮き彫りになったのは、受容研究の議論が立脚することが可能な基礎的な資料の多様性である。研究会で紹介された、戦後に松竹の調査室が作成した観客層分析はまさに得難い基礎資料である。

しかし、受容の調査ではそうした好個の材料はまれであることも疑いない事実であるのだが、角度を変えてみると、多様な典拠を見いだすことができる。劇評や月評は受容という点では基本的な資料となる。また、雑誌というメディアの機能を再検証することで、受け手にとどまらない読者の存在が浮かびあがってくる。流通という視点から書店の活動を考察したり、同一人物による長期間の月評も定点観測の意義を帯びる。劇団の機関誌に掲載された地方巡業の記録から各地後援組織の実態に迫ることも可能である。あるいは、画像を精密を読み込み、一点の静物画から「新世界の驚異」を受け止めるという視点が示された。

このように研究の土台となるべき資料は多様にして発掘することが可能であり、受容者研究の発展が期待できるのである。

(4)本研究の最終的な共同研究の成果として報告書を、研究代表者、連携研究者、海外連携研究者、研究協力者の寄稿を集めて、公刊したので、以下に目次を掲げる。

- ①女優誕生— <明治>から<大正>へ、女が文化を変えた(井上理恵)
イタリア・ファシズム期の展覧会美術—シエナの画家ブルーノ・ボンチ(1914-1944)を中心として(上村清雄)
 - ②台湾戦争図再考(木下直之)
 - ③昭和戦前期日本の映画観客についての覚書—映画法施行前後の『国際映画新聞』から(古川隆久)
 - ④GHQメディア政策と、戦後占領期の演劇上演をめぐる—芸術受容者の研究(川崎賢子)
 - ⑤歌劇雑誌にみる浅草オペラの一断面(京谷啓徳)
 - ⑥書店資料から読む外地の読者—『全国書籍商総覧』(1935年)を用いて(日比嘉高)
 - ⑦築地小劇場における観衆の形成と変化—1924年から1927年まで(阿部由香子)
 - ⑧1924年アメリカ公演『奇蹟』をめぐる—海外公演の舞台演出とその受容(大林のり子)
 - ⑨1929年ドイツにおける写真展「Film und Foto」の展示に関する研究(江口みなみ)
 - ⑩植民地時代のシドニーにおける美術受容の端緒(寺門臨太郎)
 - ⑪昭和戦前期モダニズムとアマチュア写真—板垣鷹徳の写真展月評『アサヒカメラ』1933年~1942年(五十殿利治)
 - ⑫American Consumption of Japanese Design and Development of ‘Japanese Modern’ during the Occupation and Cold War (Yuko Kikuchi)
- (5)研究目的に照らしてみても、研究成果としては必ずしも当初掲げた目標の鑑賞行動の一般的様態の把握が達成されていないのはいなめない。しかし、すでに述べたように、本研究の最も困難な点は実証的な検証を行うことであり、その点で、基礎的な資料の多様性を確認したことは、今後の受容史的な研究の発展に繋がるものであり、大きな成果と考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計10件)

- ① 大林のり子、ザルツブルクで一九二〇年代に思いを馳せる、劇・ドラマ、査読無、

47、2010、1-3

- ② 井上理恵、川上音二郎の登場—明治の同時代演劇うまれる、演劇学、査読有、51、2010、53-75
- ③ Kinoshita Naoyuki, Kisaburo, Kuniyoshi and the “Living Doll”, IMPRESSIONS,31, 2010、100-113
- ④ 大林のり子、ラインハルト演出「奇蹟」アメリカ公演(一)—その興行的戦略、演劇学論叢、査読有、11、2010、323-343
- ⑤ 阿部由香子、築地小劇場上演資料のデジタル化の意義、国立女子大学総合文化研究所紀要、査読無、16、2010、49-55
- ⑥ Omuka Toshiharu, A Vanguard Wanderer Goes to the East from New York to Taiwan via Tokyo: On Shigematsu Iwakichi, a Futurist Painter, 亜洲藝術美術、査読無、2、2010、75-82
- ⑦ 井上理恵、日本統治で生れた川上の演劇、吉備国際大学社会学部紀要、査読無、19、2010、72-83
- ⑧ 井上理恵、「或る女」の上演を考える、有島武郎研究、査読有、12、2009、1-16
- ⑨ 大林のり子、1910年代のラインハルト演出に関する舞台美術批評、近現代演劇研究、査読有、2、2009、4-17
- ⑩ 五十殿利治、工場から街頭へ、そして試写室へ—板垣鷹徳におけるモダニズムとプロレタリア美術、査読無、美術フォーラム21、18、2008、116-119

〔学会発表〕(計2件)

- ① 五十殿利治、昭和戦前期モダニズムとアマチュア写真—板垣鷹徳と写真展月評『アサヒカメラ』1933-1942、L'essor de la photographie au Japon, 1900-1945, パリ日本研究センター、2009年12月5日
- ② 五十殿利治、『新美術』掲載広告にみる「新人画会」の時代、「新人画会展」関連事業、板橋区立美術館、2009年1月12日

〔図書〕(計4件)

- ① 木下直之、展示される戦利動物、展示の政治学(川口幸也編)、水星社、2010、83-102
- ② 上村清雄、アントニオ・フェデリーギとシエナのルネサンス、ルクス・アルティウム(越宏一先生退任記念論文集刊行会編)、2010、240-249
- ③ 井上理恵、ドラマ解説、社会評論社、2009、271
- ④ 五十殿利治、観衆の成立、東京大学出版会、2008、381

6. 研究組織

(1) 研究代表者

五十殿利治 (OMUKA TOSHIHARU)
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授
研究者番号：60177300

(3) 連携研究者

井上 理恵 (INOUE YOSHIE)
吉備国際大学・社会学部・教授
研究者番号：80278986
渡辺 裕 (WATANABE HIROSHI)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：80167163
上村清雄 (UEMURA KIYOO)
千葉大学・文学部・教授
研究者番号：60344959
木下 直之 (KINOSHITA NAOYUKI)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：30292858
古川 隆久 (FURUKAWA TAKAHISA)
日本大学・文理学部・教授
研究者番号：70253028
京谷 啓徳 (KYOTANI YOSHINORI)
九州大学・人文科学研究院・准教授
研究者番号：70322063
大林 のり子 (OBAYASHI NORIKO)
北翔大学・生涯学習システム学部・准教授
研究者番号：00335324
阿部由香子 (ABE YUKAKO)
共立女子大学・文芸学部・准教授
日比嘉高 (HIBI YOSHITAKA)
名古屋大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：80334019
寺門臨太郎 (TERAKADO RINTARO)
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・准教授
研究者番号：80334845
(H21-H22)
川崎賢子 (KAWASAKI KENKO)
早稲田大学・非常勤講師
菊池裕子 (KIKUCHI YUKO)
ロンドン芸術大学・上級研究員

(海外連携研究者)

江口みなみ (EGUCHI MINAMI)
筑波大学・大学院人間総合科学研究科博士
後期課程芸術専攻
(研究協力者)